

慶應 SFC 学会 (A)研究成果発表(学会発表)

成果報告書

田中 朋子 (慶應義塾大学 政策・メディア研究科 後期博士課程 2年)

発表概要

発表研究タイトル：フランクリンメソッド介入研究に関する文献レビュー
—演奏者を対象とした身体教育における効果検証法の考案にむけて—

発表形式：口頭発表

学会参加期間：2023/10/14 - 2023/10/15

会議名称：日本音楽教育学会第54回弘前大会

場所：弘前大学

研究概要

歌唱や楽器の演奏は、特有の姿勢や動作のために身体に負荷のかかる行為であり、演奏者の80%以上が演奏に支障をきたすほどの痛みや故障を経験している (Ackermann et al., 2012)。そのため、健康維持と故障予防のための教育の重要性が指摘され、欧米の音楽大学では学生を対象とした呼吸法や身体の使い方の教育が実践されている。

本研究では、それらの身体教育メソッドの中でも特近年注目を集めているフランクリンメソッドに着目した。指導を受けた多くの演奏者がその効果を実感したという感想を述べている一方で、演奏者を対象とした指導の客観的かつ定量的な効果検証の報告は不十分である。そこで、これまでに行われたフランクリンメソッド指導の効果検証に関する文献レビューを行い、先行研究で用いられた方法や効果の評価指標などを整理した。

研究成果・今後の活用

レビューの結果、これまでに実施された5件の効果検証研究の対象はダンサー（3件）とパーキンソン病患者（2件）であった。いずれもフランクリンメソッド学習後の実験群の運動・認知機能の向上が報告された。また、効果検証はすべて米国で実施され、日本での研究は未発表であった。演奏者を対象とした定量的な効果の検証も未だ発表されておらず、効果測定における評価方法の検討や長期的効果の検証などが今後の課題である。

演奏者の故障予防や健康維持に関する教育の必要性はすでに指摘されている一方で、その研究は日本国内では萌芽期にある。今回参加した日本音楽教育学会は国内最大の音楽教育学の学会で、日本全国の音楽教育に携わる教員や研究者の研究協議の場として重要な役割を担っているが、今回の大会でも、教育現場での実践報告や教材研究などの発表が多く、申請者のような演奏者の健康や身体教育に関するものはほとんど

ど見られなかった。しかし、発表後のディスカッションや情報交換会では多くの参加者からの反応を頂戴した。また、発表がきっかけとなり芸術大学でゲストレクチャーの機会を頂くなど、多くの音楽教育者が身体教育の実践に興味を示していることが伺えた。海外の前例を見ると、この研究領域の発展のためには演奏者、音楽教育者、研究者間の交流が不可欠であるため、今回のネットワークを大切にし、今後の研究に活かしたい。

レビューの結果と大会での経験を踏まえ、演奏者を対象としたフランクリンメソッドの効果検証の計画を立案し、博士課程の研究を進める。